令和６年度　さくら国際高等学校　学校評価表（自己評価）

学校教育目標	中・長期目標
生徒一人ひとりが、自由でのびのびと、自分に合ったスタイルの学習をして、「生きる力」をはぐくむともに、生徒、保護者、教師の広場である開かれた学校を目指す 生徒が自分自身の人生を力強く歩んで行けるようになるまで応援し続ける ①　生徒一人ひとりが主体となる教育 ②　好きなこと得意なことを伸ばす教育 ③　人とは違う「個性」を認め合う教育	①　生徒一人ひとりを大切にし、自ら考え学ぶ態度を育てる ②　生徒が将来の目標を持つための「きっかけ」を見つけられる環境づくり ③　地域（社会)、保護者、学校の連携を密にした、開かれた学校づくり ④　多様な生徒の実態に対応できる特色ある教育の充実
	本年度の重点目標
	①　笑顔で元気よく挨拶できる礼儀正しい人の育成 ②　生徒指導の徹底と生活習慣の確立により、自主性と責任感を重んじる態度を養う ③　生徒のみならず、保護者も交流・情報交換できる場としての開かれた学校づくり ④　目標を持たせ、自己実現を図る

領域	評価項目	具体的目標	目標の達成状況	評価	次年度の改善方策
教育課程表・学習指導	教科支援の充実	授業公開週間等を利用し、６月と９月に４日間の授業参観を行い、参観した保護者からの意見による授業改善に努める。 また、教科指導力向上のための研修に積極的に参加する。	授業参観をし、授業改善に努める教員が多数を占めた。授業参観を通じて、さくら国際高等学校としての活動の理解を深めることができた。 研修への参加が積極的にできなかった。	B	公開授業を通じて、引き続きさくら国際高等学校の理解を深める。 教育センター研修以外にも、長野県から研修周知があるため、積極的な参加を呼びかける。
		生徒による授業評価アンケートを年１回実施して、「わかる授業」を目指す。	生徒による授業アンケートを実施して、約８割の生徒が学校に満足している結果となった。	B	引き続き、生徒による授業評価を実施し、教員は授業改善に努める。評価結果の課題を教科で共有し、協調した取組が実現できるよう促す。

	自学自習の促進	毎週水曜日に自学自習の時間を設けて、各自課題に取り組み、学びの意欲を高める。長期休暇の際は、全教科課題を課して学びを継続できるようにする。	自学自習の時間を設けることで、主体的に学習取り組むことができた。長期休暇の際の課題は全生徒が提出することができた。	A	引き続き自学自習の時間を活用し、主体的に学習に取り組むことができるように支援する。
生徒指導	生活習慣の確立	自分に「自信」を持てるように生活習慣の徹底を図る。日常生活の中で、身だしなみの徹底を図る。	遅刻や指導の重なる生徒が見られた。指導に対しては素直に従うことができるが、自主的な行動に結びつかない生徒がいる。	B	「さくらハンドブック」を遵守して、観点は崩さないように指導していきたい。
	問題行動未然防止	指導方針を明確にし、組織としての対応を心掛けることにより、問題行動を未然に防止する。	保護者の価値観や親子関係の多様化に苦慮したが、教職員間で連携を取りながら、対応することができた。	B	担任を中心に学年や学年間の・連携・協力を更に推進し、組織としての指導体制を強化する。
		積極的にコミュニケーションを図り、生徒理解を深める。	日頃から生徒と積極的にコミュニケーションを図りながら、信頼関係を深めることができた。担任と副担任が協力して個人面談を行い、複数の教員が生徒に向き合う姿勢作りができた。	A	生徒と積極的にコミュニケーションを図り、生徒との信頼関係を構築する。毎週行う教務会等を通して情報を共有し、さくら国際高等学校の生徒一人一人を大切にしながら、集団としての質を高めていく。
進路指導（キャリア教育）	進学指導	面接・小論文指導を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜等における志望校合格率をあげる。	3 年次の 7 月に個別面接指導を全員に行った。さらに、必要に応じて小論文指導も行った。その後の進路に応じて複数回の面接指導を追加で行うこともできた。	A	引き続き、面接指導、小論文指導を行って、進学支援の充実を学校全体で行う。
	就職指導	進路ガイダンス・キャリア講座・面接指導等を効果的に連動させ、学校紹介による就職内定率をあげる。また、就業後のミスマッチを防ぐため、相談体制を充実させる。	進路ガイダンス・キャリア講座を活用し、就職支援を行うことができた。また、ミスマッチを防ぐため担任同行で、企業に訪問するこ	B	進路ガイダンス・面接指導・就職セミナーなどを連動させる。ミスマッチを防ぐために、担任との面談、企業研究や応募前職場見学を確実に行わせる。

			とができた。		
人権教育・同和教育	人権意識を高める	本校の「いじめの未然防止マニュアル」を運用し、状況把握や情報共有がスムーズにできる協力体制を作る。また、様々な教育活動を実施し、生徒の人権意識を高める。	いじめの未然防止のために、三者面談を活用し、情報交換を密にして対応することができた。人権教育指導計画を中心に人権意識向上につながるさまざまな啓発活動を充実させることができた。	A	いじめの未然防止につながる状況把握や情報共有を継続し、小さなことを見逃さない体制づくりを行う。いじめは絶対に許されないという意識定着のために、更なる人権意識向上を目指す。
		本校の「人権教育指導計画」を活用し、人権・同和教育を充実させる。	人権・同和教育のホームルーム活動では、各クラスで真剣な取組が継続できており、学びを通して人権意識を高めることができた。	B	人権・同和教育が充実するような働き掛けを継続し、正しい判断や行動が取れるよう支援する。
自己実現の支援	教育支援の充実	教育相談を通じて、生徒が抱えている問題や悩みの早期発見に努める。また、ソーシャルワーカーとの連携を強化して、生徒の心に寄り添う教育支援を行う。	気になる生徒との面談についての情報共有を図った。ソーシャルワーカーと連携し、生徒・保護者の悩みに対して、それぞれが解決の糸口を探すためのサポートができた。	B	学校生活を充実させるために、継続した支援を続けなければならない。そのためには、個々の生徒に向きあい、いつでも相談・支援できる環境づくりを目指す。
	資格取得の推進	資格取得へ積極的に挑戦する意欲を持たせ、より高い合格率を目指す。	令和６年度実績 英検準一級（１）英検２級（１） 漢検２級（２）	B	進路実現につながる資格を取得する生徒を多く育てるために、支援体制を強化する。
	各種大会参加への指導・支援	各種大会に出場したい生徒へ、大会に参加できるように指導・支援する。	バトミントン競技大会へ出場する生徒を指導し、北信越大会に出場することができた。	A	生徒の自主性を重んじ、大会に出場できるように引き続き指導・支援する。
	人間関係の構築	経験が少ない生徒が、人とのかかわりを通して自信を持てるようにする。	普段の学校生活を通して、多くの人と触れ合う機会を作ることで生徒が自信を持って活動することができた。	B	自分に自信が持てるように、様々な活動を計画し、実践していく。
色　特	教育活動情報の公開	教育活動やその成果を積極的に開示するた	インスタグラムに学校行事の様子		学校の良さをアピールするため、積極的にホームペー

		め、ホームページ・SNS において最新の情報を更新し提供する。	や、雰囲気を掲載した。一方で、ホームページを上手く活用することが出来なかった。	B	ジ・SNS を活用し本校に興味・関心を持ってもらえるような機会を構築する。
	地域との連携促進	異年齢間の関わりを重視し、地域の保育園や小学校・自治体と活動を行う。地域包括支援センターと連携し、認知症サポーター養成講座を開講する。	地域の保育園や小学校と自治体と連携することができた。また、認知症サポーター養成講座も２年連続で開講することができた。	A	引き続き、地域との連携促進に努めていきたい。まだまだ連携ができる部分もあると思うので、学校全体で考えていきたい。
	大学等との連携促進	上田女子短期大学と連携し、「灯キャラバンプロジェクト」を実施する。	上田地域の抱える問題や課題にそれぞれの『願い』を込めて、粘土でキャンドルを作った。地域との繋がりを大切にしたいという思いが共有することができた。	A	来年度も「地域に生きる人々に学ぶ」「企業・大学等訪問」等、学校や事業所との連携を検討したい。
	国際教育活動の充実	上田市内の専門学校に通う留学生との交流活動を行う。ALT とのティームティーチングを充実させ、コミュニケーション力と国際理解力の向上に努める。	教科書の内容に加えて、外国の文化や料理などについても取り扱い、国際理解を深めた。	B	事前の打ち合わせを入念に行い、授業の内容が充実したものになるように努めていく必要がある。
	保護者との連携	年２回の保護者会と三者面談を実施して、保護者との連携強化を図る。	当初の予定通りに実施をすることができた。保護者との話し合いの場を設けることで、今後の展開を確認することができた。	B	引き続き、保護者会と三者面談を行うことで、生徒にとってより良い環境を整備していきたい。
保健・安全管理	安心・安全な教育環境の充実	自転車の安全な利用に関する知識と技能を習得し、交通事故を防止することを目的として、年１回の自転車安全講習を実施する。	全生徒が参加することができ、受講証明書を配布することができた。	B	自転車は運転に運転免許を要さず、利用者が交通安全教育を体系的に受ける場がないことを学校全体で理解して、毎年継続していきたい。 また、道路交通法改正によるルール変更についてもしっかり伝えていく。
		生徒が災害発生時に安全に避難できるように、知識と行動を身につけることを目的として、防災避難訓練（火事、地震それぞれ	防災避難訓練（火事、地震それぞれ１回ずつ）は２回実施した。これらにより、危機意識の向上を図	B	２回実施は予告ありの訓練だったので、予告なく訓練も出来るように検討していきたい。

		１回）を実施する。	ることができた。		
		保健指導を実施し、自分の生活習慣の見直しを促す機会を目指す。	保健指導の課題を通して、生徒の実態を知ることができた。健康の保持増進の意識を高めることができた。	B	引き続き、生徒が心身ともに健康に過ごすことができるよう、保健指導や健康相談の充実を図りたい。
		環境衛生検査の実施し、安心安全に学習できる環境整備を図る。	環境衛生検査の実施結果は良好であり、安心安全に学習できる環境を整えることができた。	B	引き続き、環境衛生検査を実施していく。また、状況に応じて必要な処置を取れるように、学校薬剤師と密な連携を図りたい。
		カウンセラーの充実を図り、学校ではカバーし難い多くの役割を担い、教育相談を円滑に進めることを目指す。	常駐のカウンセラーを設置し、生徒・保護者のニーズに応じて、随時カウンセリングを行える環境を構築できた。	A	引き続き、きめ細かなカウンセリングを実施していく。学校において、教職員とスクールカウンセラーとの連携が不十分にならないように方針を明確としたい。

○　評価は三段階として、　A：目標を超える成果をあげることができた　B：目標に達成することができた　C：目標に達しない面があった